

平成 29 年度 第 1 回 滋賀県ふるさと・水と土保全対策推進懇話会議事録

日時：平成 29 年 7 月 28 日（金） 11：00～15：50

場所：現地調査＜畑の棚田（県唯一の日本の棚田百選）＞
高島市畑棚田ふれあい交流館＜高島市畑 580＞

出席委員：大橋晶子、奥村喜美子、河村律子、北井香、古株明子、是永宙、星野敏、
松本長治

現地調査

バスと徒歩により棚田の現地に向かい、畑の棚田保存会より、畑区の集落について現地で説明をいただき、現地調査を行った。

会議（高島市畑棚田ふれあい交流館）

議題 1 高島市畑の棚田保全の取組について（資料 1）

畑の棚田保存会より、資料 1 に基づきパワーポイントを用いて畑における棚田保全の取組について説明を受け、意見交換を行った。質疑応答は以下のとおり。

（委員）

棚田オーナーやボランティアで受け入れられる棚田の面積は、地域全体の 15ha のうちのどれくらいなのでしょう。

（地元）

一口は 100 平方メートルなので 50 口だと 5 反になります。残りは地元の農家が耕作していますので、オーナー制度で管理しているのはごくわずかという状態です。

（委員）

オーナーがいるから地域が保全されているというのではなく、全体としては地元が管理しているのですか。

（地元）

オーナーが来てくれることで地域が活性化する部分もあり、元気をいただいているので地域が頑張っているのだと思います。

（委員）

オーナーがさらに増えることで、オーナー制度を受け入れるところが広がるのでしょうか。

（地元）

受け入れたいが高齢化で対応が難しいのが実情です。棚田オーナー制度が平成 12 年から始まって以来ずっと同じメンバーがかかわってきているので、全てのメンバーが 18 歳年齢を重ねてきていることになり受け入れは大変難しいのが実情です。

（委員）

農家民宿をされているところが 5 件あると聞いたが、積極的な PR 活動がされていないのは高齢化で手が回っていないからでしょうか。

（地元）

棚田オーナー制度の PR の中では、農家民宿を利用してほしいということは積極的に広報しています。一般客につきましては、商工会関係のホームページに載せていた程度です。一般客の受け入れについては積極的に行っていないのが現状です。オーナーの受け入れについては積極的に広報を行っていますが、宿泊される方は少ない状況です。過去に 1、2 組程度は見られましたが、最近はなくなってきています。

（委員）

オーナー以外にも幅広く呼びかけを行うと、宿泊される人数が増えるのではないですか。

（地元）

旅行会社でも認知はしていただいているので来られる方はいるのですが、昼食をとって棚田を見学して帰られるパターンが増えてきているように感じています。農業体験をして食事と一緒につくるといったニーズが少なくなってきています。

（委員）

お客さんが来られるのであれば、民宿を運営されているところは受け入れができますか。

（地元）

営業しているので受け入れることに問題はありません。

（委員）

棚田の写真を撮りに来た人などが、お茶を飲んだり何か食べたりできる気軽に立ち寄れるカフェ等の場所がありますか。

（地元）

今のところはありません。そのような施設ができればよいですが、常に構えておかなければなりません。事前に来られることを知らせてくれれば待ち受けることは可能ですが。そこまでお客さんがいないため、常に待っておくことは難しいです。

（委員）

棚田オーナー制度は多いときは300人程度集まっていた時がありますが何か宣伝などの対策をされていたのでしょうか。

（地元）

特に何もしていません。当初、オーナーの受け入れについては行政がPRを積極的に支援してくれていました。また、日本の棚田百選に選ばれたことで新聞にも掲載されました。出資をしなくても宣伝効果は十分ありました。特にこの時期はPR活動はしていませんでした。行政がダイレクトメールを送ってくれていますが、なかなかリピーター以外は来ない状況です。

（委員）

リピーターはずっと続けておられるのですか。

（地元）

参加者の半数程度います。長い人だと10年以上継続されています。はじめは「おまかせ」が多く、次は「こだわり」が増えましたが、現在は「おまかせ」が最も多い状態です。

（委員）

私は、35haの田んぼを所有して管理していますが、一部田んぼのオーナー制度を導入しており年4回来てもらっています。地元にはかないものを使って体験型にしているのですが、畑地区ではここにしかない体験型にできそうなものはあるのでしょうか。

（地元）

「こだわり」の方は田んぼ以外のこともしています。

（委員）

宣伝効果として魅力を発信することができると思います。

（地元）

田んぼを提供する人が減ってきていますので、オーナーさんの受け入れも減ってきています。

（委員）

断るのですか。

（地元）

断っていません。今年は50人で募集をかけているのですが実際は37人でした。応募が

51 であったとしても断りません。

（委員）

大阪府、兵庫県等、都会の人はなんでも新鮮に感じると思います。私の周りでいうと竜王はそばが有名なのでそば作り体験や畑の芋ほり、焼き芋に取り組んでおり、新鮮に感じられると思います。そのような体験をされた方はいきいきされてまた来たいと言われると思います。

（地元）

畑地区では獣害対策が最も課題となっており、四方からも上からも畑に囲いをしないと作物が獣害を受けます。サツマイモを植えて芋ほりができれば良いのですが、経費がかかりすぎて現実的ではありません。自家消費分の野菜を作るにも獣害対策で10万円以上の経費がかかってしまいます。体験型イベントは時期が合うかの問題もありますので、なかなか考えるのが難しい状況です。

（委員）

トラクターやコンバイン、田植え機は個人で持っているのですか。グループですか。機械銀行があるのでしょうか。

（地元）

全て個人です。

（委員）

補助金は受けにくいですね。

（地元）

補助金は全く受けていません。

（委員）

機械銀行とまではいなくても、仕事を分担してはいかがでしょうか。高齢化が進んでいるので、1集落で機械を共有できるようなシステムにしてはいかがですか。80歳の人は機械を使うことができなくなっても、後継者が使うことができますと思います。若い世代が何人かで機械を所有することは難しいのでしょうか。草刈り機は慣れていれば高齢になっても使うことができますと思いますが。

（地元）

おっしゃるとおりです。

（委員）

現在は機械に乗っていれば可能な時代です。高齢な人でもできる仕事と若い人しかできない仕事を分担するのはいかがでしょうか。この地域はまとまりがあると思うので、機械を購入する際に補助金がもらえるような取り組みをしてみたいはいかがでしょうか。

（委員）

一度、そのような取り組みをしているところを見学するとイメージがわくのではないのでしょうか。

（地元）

とても理想だと思います。いずれはご指摘のように仕事の分担をしていかないと続かないと思います。今後のことを考えるとそのようにしていきたい。若い人といっても60歳代で、もうすぐ70歳手前になります。

（委員）

ボランティア、大学生に来てもらっても機械を使いこなせるわけではありません。簡単なことではないと思いますが、この地域はとても団結力があると思いますし、仕事の分担を導入してみたいはいかがでしょうか。

（委員）

棚田ボランティア、オーナー制度を受け入れることは準備や段取りなども複雑であり、地域にとっては本当に大変だと思います。ただし、この15haの棚田を本当に末永く守るのであれば、この地域で作る米を他の平地でできる米と差別化させて、経済的に価値が評価されることが必要だと思います。この地域でできる米を一俵4〜5万円で売ることができれば継続していくことが少しは期待できると思います。自身の集落でも無肥料、無農薬、機械に頼らない耕作方法で、3〜4年かけて一俵6万円で売れるようになってきています。同じことをこの集落で行うのには無理がありますが、コンバインで刈っていた田んぼ何枚かを観光用に天日干しにすることで、それを見たお客さんは付加価値を評価されるのではないかと思います。そのためにこれから個人が機械をもつのではなく、地域で団結して組合組織を作っていくことが理にかなっていると思います。もしくは、この地域には最高の景色があるので、イベントをするのであれば田んぼだけでなく坂をうまく使うような、マウンテンバイクのレースができるような場所にする等すれば、畑地区を世界に売って出ることができると思います。基本的には、地元は応援するだけで、若い大学生だけでできるようにすることで地元の負担を減らせると思います。このとても素晴らしい景色は世界に向かって発信できると思います。

（委員）

この地域を世界に売り出すことはできると思います。

（地元）

地元に住んでいるものからするとそこまで魅力のある地域だとは思っていません。

（委員）

地元に住んでいる方はわからないと思います。畑の名前と棚田のイメージを売っていく必要があります。米は一俵 2 万円で売っていても続かないので、一俵 5 万円、6 万円の米を作っていく必要があると思います。これまでに取り組んでいることを変える必要はないと思います。

（委員）

若い人は SNS をはじめとして情報を発信することができます。英語で発信すれば、世界にも発信できます。情報発信のボランティアがいても良いのではと思います。

（委員）

作られた米を酒造に回されていますが、逆に酒を造ることで経済的に圧迫されていないでしょうか。米を売る値段で買ってもらっていますか。平地より苦労がある分、もっと高くで買ってもらいたいはずだと思います。

（委員）

どのような販路で米を売っているのでしょうか。

（地元）

以前は JA に売っていたが最近は JA が少なくなって、今は個別に売られているケースが多いです。値段は、JA よりも高くで買ってもらっています。

（地元）

以前、畑地区に小泉進次郎氏が来ましたが、昼から公演で畑の宣伝、棚田米の宣伝、製品の販売についてアピールをしてくださいました。JA のブレンド米ではなく地域ブランドとして販売していく必要があるとおっしゃっていましたが、そのとおりだと思いました。

（地元）

棚田百選に選ばれたときは、米がとても売れていました。しかし今では買いに来る人は半分になってしまっています。震災が発生すると京阪神からも買いに来てくれる人がいますが、珍しいときは人が集まっていましたが、最近は飽きてきている傾向があるように思います。

（委員）

オーナーとして 15 年間ほどイベントに参加していますが、実際にオーナー制の受け入れの

推移をみて、25 年度あたりから受け入れ数が落ちてきており、放棄される田んぼが増えてきているように思います。オーナー制のイベントのときなどは地元の 50 代くらいの若い世代の方が来られていますが、その方たちが取組の主力になれる良い案はないでしょうか。忙しい世代だから難しいのでしょうか。

（地元）

若い世代の人は、この地域に住んでいてもなかなか参加しないというところがあります。自分たちの代は最初から関わってきているので、世代交代で自分たちが手伝って次につなげていきたいと思いますが、このような考え方を持ってもらえないのが悲しい現実です。

（委員）

U ターンは難しいのでしょうか。息子が帰ってくるのは難しいと思いますが、娘ターンや孫ターンの可能性はないでしょうか。ニュースレターを紙媒体にして、都会に出ておられる他出子の皆さんの元へ情報発信するのも良いと思いますが、いかがでしょうか。

（地元）

難しい印象です。

（地元）

私には息子と嫁がいます。孫娘も二人いますが、何とかして後を継いでいってほしいと思っています。会社組織にして引継ぎができないかと思っていますが、どうしたらよいでしょうか。5、6 万円で米が売れると状況も変わると思いますが、老後を考えると会社組織にする必要があると思っています。この 3 月に地元で何か残せるものがないかと考えていたところ、畑地区から朽木に抜けるトンネルを掘る際にとても豊富な量の美しい水が出てきました。貯水池に向かって 1,000m パイプを引っ張っていますが、溢れている水を 300m ほどパイプで引っ張ってコイの飼育と人間の飲み水にしています。このように地域資源を後に引き継いでいってくれる人を探しています。個人で会社組織に変えることができないかと思っています。

（委員）

若者に継いでいくためには儲かるシステムを作っていく必要があると思います。

（地元）

水を売ろうとすると、機械を買うのに 200 万円の費用が必要になります。補助金はあるのでしょうか。

（委員）

米原市や長浜市では地域おこし協力隊の制度もあります。高島市でも地域おこし協力隊が

地域に入ってくると状況が劇的に変わってくると思います。若い人に託してみても良いと思います。

（委員）

最後に高島市が提案できることを表明してほしいですが、何かありますでしょうか。

（高島市）

現地では、作られた米の半数は JA に出荷されていると聞いています。このような素晴らしい地域で作られた米なのでブランド化して付加価値をつけて収益につなげてほしいです。地域の中で大きな組織を作ることも大事だと感じました。

（委員）

高島市のためにもなると思うので真剣に検討してみませんか。

（委員）

宿題にしましょう。それでは、議題 1 を終了して次の議題に移ります。次に議題 2 の「ふるさと・水と土保全対策、棚田地域の総合保全対策事業の平成 28 年度実績と平成 29 年度の計画」に移ります。

議題 2 ふるさと・水と土保全対策、棚田地域の総合保全対策事業の H28 年度実績・H29 年度計画について（資料 2）

（事務局）

資料 2 に基づきパワーポイントを用いて説明。

（委員）

全体で見たときにボランティアの人数は減ってきていますが、個別に見たときは多い時と少ない時があると思います。滋賀県として棚田を続けていくうえでどのように考えていますか。また、私は棚田を農業サイドから見ますが、観光客としてみると観光とタイアップしていくことが必要だと思います。他の地域では、茶畑と観光のタイアップの例もあります。滋賀県、高島市としてどのように考えているのか聞かせてほしいです。

（事務局）

棚田ボランティアは、昨年度は平均 8.9 人、少ない地域だと 2、3 人、また職員以外誰もいない時もあります。少しでも活動を広げていくために Facebook で情報発信をしています。ボランティア活動や社会貢献活動に取り組んでいる大学にも出向いて、学生と直接話をして情報を発信していますが、どこまで効果があるかは目に見えていない状況です。龍

谷大学で情報発信をしてきましたが、実際に畑には龍谷大学の学生が来ていたので、少しは効果が出てきているのかもしれませんが。引き続き情報発信をしていきたいと思っています。草刈りで汗をかくだけでなく、ボランティア活動の後に地域と一緒に行うイベントの企画、運営のボランティアについても来てもらえるよう情報発信していきたいと思っています。都市農村交流については、地域の方だけでは棚田の維持管理ができないため、都市住民や消費者にも呼びかけをしており、例えば観光ではツアーに組み込むことも考えています。

（事務局）

棚田と観光との連携について補足します。今年度、「しがの里をめぐるものがたり応援事業」を創設して農村地域に観光客を呼び込む取り組みを行っています。それぞれの地域で活動している方々をつないで全体でPRしていきたいと思っています。観光交流局と連携して観光まちづくり事業、地域 DMO として都会の観光ツアーをつくっています。地域の観光協会は、ツアーを仕組んでお金を地域に回す取り組みをされています。そのように観光交流局と連携して支援したいと思っています。来年度も引き続き進めていきたいと思っています。

（委員）

ボランティアは受け入れる側、参加する側の双方が利益を得る（win-win になる）必要があります。ボランティア数が減ってくることは地域にとっては逆効果につながってしまうので、県の方で力を入れていただきたいと思います。棚田と観光との連携についてですが、地域は農家民宿として宿泊してほしいというアクションを起こしていないと思います。夜景の写真を撮影しに来られた人が宿泊されるというような例が一件出ると、地域に広がっていくと思います。地域の魅力を発信する方法は地図にマッピングすることも良いと思いますが、人が地域に入ってくるように仕掛けることが第一歩でとても重要だと思います。

（委員）

棚田は、日本国内より世界の方が評価が高いと思います。世界でも棚田が見えるホテルは大変高価です。インバウンド需要を取り込むことも重要で、地域の魅力を世界へ発信する方法も考えていただきたいと思います。

（委員）

議題 1 での指摘と関連する指摘です。

（委員）

「人と地域が織りなす滋賀の農業・農村活力創造プロジェクト」で終了したモデル事例がありますが、3 パターンの取組を普及させるような取り組み、例えばマニュアル化するのはいかがでしょうか。先ほど畑地区でも集落営農の糸口がわからないとありましたが、事例

の中で話し合いのコツやノウハウが蓄積されていると思います。これらをどのように普及させていくのか教えていただけますでしょうか。

（事務局）

過年度に集落に伺い集落営農の実態調査を行いました。これからの農業を考えると地域が自ら話し合う必要があることがわかりました。そこで地域農業戦略指針をつくり各農業農村振興事務所の職員が地域に出向いて、地域の方にこれからのことを話し合っていたいています。現在、地域農業戦略指針の充実を図るためにモデルをつくっており、中山間地域現状調査で県内の優良事例を集めています。今後、他地域が話し合いに入っていく過程でモデル地域やその活動を事例として紹介し、話し合いの推進を図りたいと考えています。

（委員）

それらの事例は、地域で話し合いをする際にツールとして使うのでしょうか。

（事務局）

その通りです。地域農業戦略指針から地域における悩みをくみ取り、我々もスキルアップをしていきたいと思っています。

（委員）

それでは、次の議題 3 に移りたいと思います。「中山間地域現状調査」についてご説明をお願いします。

議題 3 中山間地域現状調査について（資料 3）

（事務局）

資料 3 に基づきパワーポイントを用いて説明。

（委員）

メリハリをつけて言うと、アンケート調査の中でここは重要である、施策のベースになる、というような結果はどこにあるのでしょうか。

（事務局）

最も特徴的な結果は、多面的機能の認知についてです。中山間地域の機能としては、水源涵養、国土保全、洪水の防止等が重要であることは農水省、我々共にアピールしています。言葉も内容も理解している方が 4 分の 1 との結果でしたが、これまで調査例がないために貴重な情報だと思っています。資料 3/P17「性別による農業・農村の多面的機能に対す

る理解」においては、「言葉も機能についても理解している」は、男性は女性の3倍であり、女性においては「聞いたことはないが、内容は理解している」が多かったので、特に女性に対して多面的機能の役割を知っていただくことが大切だと思っています。国土を守っているのは地元が中山間地域を保全しているからということを防災面からもアピールしていきたいと思っています。

（委員）

今回の調査は対象が集落で農村地域の方々が中心となりますので、直接関与、従事、貢献されている方ですら認知度としてはまだまだであり、都市住民からするとさらに遠い存在であることが分かったと思います。今後さらに周知を働きかける必要があると思います。周知の先の施策はどうするのでしょうか。

（事務局）

獣害対策の強化を図ることです。今年度、政府への政策提案に獣害対策の強化を盛り込みました。現在、獣害対策としては滋賀県農業経営課、自然環境保全課が取り組んでいます。獣から棚田を守るために獣害柵を設置していますが、獣自体の数を減らすための施策も県としては行っているところです。農業農村整備事業としましても、柵の設置の維持管理などを充実させていきたいと考えています。

（委員）

棚田の多面的機能の周知の次の施策を聞いたつもりです。調査結果からは獣害が重要だと思いますが、地域の方が棚田の多面的機能を知ったその先はどうするのかということが問題になります。ほかにご指摘がありますでしょうか。

（委員）

棚田の多面的機能の認知度が女性と男性とで差があることは意外でした。男性は言葉を聞いたことがある人が60%近いですが女性は全体の4分の1でした。懇話会のメンバーは女性が多く、地域で頑張っている人も多いです。これまで女性は発言しにくい状況でしたが、本日の懇話会のような機会もあり、女性が発言する機会は多く出てきていると思います。しかしまだまだ女性が前に出にくい状況であり情報を得ることができないので、今後解決していく必要があると思います。行政の力ももっと必要で、誰でも情報が得られるようにする必要があります。追加で質問ですが、他に男女間で差があったような質問はあったのでしょうか。例えば、定住意向、後継者問題等、男女で異なると思います。

（事務局）

繰り返しになりますが、一番はっきり差が出ているのは多面的機能です。また、女性にとって交通手段の確保は、男性よりも大きな問題です。交通手段がない、車に乗ることがで

きない方もいます。デマンドタクシー、コミュニティバス等は、地域の交通手段として存在しますが、なかなか活用されていないことが調査で分かりました。

（委員）

男女間における情報格差があると思います。地域づくりへの参画の度合いが起因していると思います。

（事務局）

アンケート調査は回答が男性に偏る懸念がありましたが、女性の方や若い方にもお願いしました。回答者は男性 62%、女性 37%でした。獣害については農業面での被害はありませんが、女性からは子供を外で遊ばせられない、洗濯物に悪さをするという結果が得られました。

（委員）

回答者の男性と女性について、どのように調査したのでしょうか。1 戸につき 1 アンケートでしょうか。

（事務局）

アンケート用紙を区長さんに提供し、区長さんから各家に振り分けられました。

（委員）

1 戸に 2 枚配布したり、夫婦でそれぞれ答えている場合はあるのでしょうか。

（事務局）

あるかもしれません。

（委員）

男性だけのエンジンで地域づくりが行われているのかもしれませんが。女性のエンジンにも火が付いたらもう少し先の段階へ行けるのではないのでしょうか。なにか施策を考えられないのでしょうか。

（委員）

地域の寄り合いの場には女性が参加できる場がないのが現状です。そこが大問題だと思います。

（委員）

大津、湖南地方の自治会では女性の役員は一定数いますが、湖東地方では自治会長、副会長はほぼ 100%男性です。集落を運営していくのに女性が入っていないのは問題です。男

性が行う仕事になっていませんか。女性の意見が反映されない、女性が前に出ることを良しとしない仕組みになっていることが心配です。

（委員）

農業の現場仕事は女性が頑張っているのに、農談会は男性のみです。女性の意見は出てこないのが問題だと思います。

（委員）

女性が既存のコミュニティの中に入っていくことも良いのですが、独立して女性が主体となる集団を作るのも良いのではないのでしょうか。議題 3 はこれで終わりとしませんが、事務局から何かありませんでしょうか。

（事務局）

今年度から新たに取り組んでいる中山間地農業ルネッサンス事業について説明します。
資料 3（P21～28）により中山間農業ルネッサンス事業について説明。

（委員）

全体をとおして、ご指摘、ご質問はありますでしょうか。特にないようですので、進行を事務局をお願いします。

（事務局）

本日は、「高島市畑の棚田保全の取組」、「ふるさと・水と土保全対策、棚田地域の総合保全」、「中山間地域現状調査等」につきまして熱心にご審議、意見交換いただきありがとうございました。また、畑の棚田保存会、高島市役所の皆様ありがとうございました。中山間地域をはじめとする農山村地域の活性化のために、地域の方々と連携して滋賀県として適切な対策をしていきたいと思っております。今後とも宜しくお願い致します。懇話会の委員の任期は、平成 29 年 8 月末日までとなっております。次期委員のメンバーにつきましては、現在内部で協議しています。委員の方の中には、再度お願いする場合がありますと思いますがその時は宜しくお願い致します。本日の懇話会の終了にあたり、農村振興課長よりご挨拶させていただきます。

（事務局）

本日は長時間にわたりご議論いただきありがとうございました。畑集落の今後の課題と女性の活用については中途半端な議論で終わってしまっています。2 点につきまして個人的な意見を申したいと思えます。滋賀県女性活躍推進課では、各方面での女性の活躍を支援しています。農政水産部でも滋賀農業女子プロジェクトを進めており女性に焦点を当てた対策を展開しています。本日の指摘を受けて農村振興課でもまちづくり、地域づくりについて女性の力を活かしていけるような施策を重視していきたいと思っております。畑集落の今

後の展開ですが、平成 29 年度の現状調査の対象集落が未定ですので、関係者と協議が必要ではありますが畑集落が良ければ候補地として入っていただいでみんなで議論することができます。今後、高島市とも相談が必要です。本日参加していただいた地元、高島市、滋賀県と連携して、地元が考えていることをできるだけ実現できるように支援したいと思っています。委員の方々につきましては、2 年間支援を頂きありがとうございました。

（事務局）

これにて第 1 回滋賀県ふるさと・水と土保全対策推進懇話会を終了させていただきます。
次回の懇話会は 12 月頃を予定していますのでご支援を宜しくお願い致します。

以 上